

北秋田鷹巣小 一緒に味わい交流 **児童 園児の給食考案**



北秋田市の鷹巣小学校（湊貞宗校長）の6年生22人が24日、同市の認定子ども園しゃろーむ（小塚光子園長）を訪れ、園児向けに児童が考えた給食を一緒に味わって交流した。市教育委員会が進める幼保小連携事業「架け橋プログラム」の一環。

児童は先月、シャロームの栄養士から幼児期の子どもに合わせた献立作りのポイントや注意点について学び、6班に分かれてメニューを考案。この日は「サケのクリーム焼き」「キャベツ、にんじん、シメジの野菜炒め」「豆腐と油揚げ、ワカメのみそ汁」「ミカン」が提供された。食べる前には、児童が紙芝居でバランスのいい食事の大切さなどを3～5歳の園児に紹介した。

続いて園児と児童が同じテーブルに着き、一緒に給食を味わった。園児たちは「とってもおいしい」「好きな味だ」などと話しながら、もぐもぐと食べ進めていた。

この日のメニューを考案したメンバーの阿部心愛さん（12）と佐藤そらさん（11）は「園児でも食べやすい味付けで野菜を軟らかくしたり、栄養が偏ったりしないようにした。園児に『おいしい』と言ってもらってうれしかった」と話した。

交流は、学校創立150周年を記念した地域貢献活動「鷹っ子パワーで地域を元気に！プロジェクト」と題して初めて実施。17日には鷹巣中央保育園（同市大町）でも児童が考案した献立が提供された。（小松田直嗣）

（令和6年12月31日（火）秋田魁新聞より一部抜粋）